

2022年3月期 第2四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2021年11月12日

上場会社名 日医工株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4541 URL <https://www.nichiiko.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田村 友一
 問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員管理本部長 (氏名) 石田 修二 TEL 076-432-2121
 四半期報告書提出予定日 2021年11月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第2四半期の連結業績 (2021年4月1日～2021年9月30日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		コア営業利益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に帰属する四半期利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	85,931	△4.1	△8,790	—	△14,026	—	△13,626	—	△14,760	—	△14,593	—
2021年3月期第2四半期	89,631	△2.1	1,360	△65.3	523	△86.1	369	△91.9	114	△96.1	146	△95.1

	四半期包括利益合計額		基本的1株当たり四半期利益	希薄化後1株当たり四半期利益
	百万円	%	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	△14,006	—	△224.30	△224.30
2021年3月期第2四半期	△1,051	—	2.28	2.28

(注) コア営業利益は、営業利益から非経常的な要因による損益(非経常項目)を除いて算出しております。

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に帰属する持分	親会社所有者帰属持分比率	1株当たり親会社所有者帰属持分
	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第2四半期	365,080	102,337	101,502	27.8	1,441.09
2021年3月期	363,572	112,435	111,167	30.6	1,733.58

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	15.00	—	10.00	25.00
2022年3月期	—	0.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年3月期の連結業績予想 (2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		コア営業利益		営業利益		親会社の所有者に帰属する当期利益		基本的1株当たり当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	185,000	△1.7	△11,900	—	△17,100	—	△18,600	—	△275.39

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社（社名）ー、 除外 ー社（社名）ー

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期2Q	71,382,652株	2021年3月期	65,162,652株
② 期末自己株式数	2022年3月期2Q	948,025株	2021年3月期	1,036,650株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年3月期2Q	65,061,333株	2021年3月期2Q	63,974,164株

(注) 期末自己株式数には、従業員持株会専用信託が所有する株式が含まれております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(決算補足説明資料の入手方法)

当社は、2021年11月12日(金)に決算補足説明資料を当社ホームページに掲載します。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	6
(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書	8
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	10
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	12
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(セグメント情報)	13
3. その他	18

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症再拡大により、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出されるなど、引き続き経済・社会活動への制限が継続し、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

後発医薬品業界におきましては、薬価改定による薬価の下落等あり一層の収益力向上が求められるとともに、品質面のみならず安定供給面でも、一層の取り組み強化が求められています。

このような状況下で当社におきましても、製造管理体制と品質管理体制の改善に取り組むとともに富山第一工場での製造・出荷再開に最大限注力しております。そして当社グループでは、2021年8月に株式会社メディパルホールディングス（以下「メディパル」）との間で、メディパルが有する医薬品流通に関するインフラと、当社の有する医薬品製造販売に関するインフラを掛け合わせ、ジェネリック医薬品の安定的・効率的な供給を可能とする提携モデルを構築することなどを目的とした資本業務提携を行うことを決定し、2021年9月には、メディパルを割当先とした第三者割当増資を実施いたしております。

A. セグメント別の業績

(単位:百万円)	日医工グループ			Sagent グループ		
	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	増減	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	増減
売上収益	72,513	65,614	▲6,899	17,304	20,316	+3,011
コア営業利益	2,449	▲8,137	▲10,586	▲1,088	▲652	+435

(注) 1. セグメント区分は、「日医工グループ」「Sagent グループ」の2つのセグメント区分としており、「Sagent グループ」は、Sagent Pharmaceuticals, Inc. 及びその連結子会社で構成され、「日医工グループ」は、「Sagent グループ」を除いた会社にて構成されております。

2. 当社グループでは、経常的な収益性を示す指標として「コア営業利益」を採用しており、セグメント利益にも「コア営業利益」を採用しております。「コア営業利益」は営業利益から非経常的な要因による損益を除いて算出しており、売上収益からも非経常的な要因は除外しております。

①日医工グループ

日医工グループにおいては、富山第一工場製造品について安心と信頼の医薬品をお客様に届けるべく、厳重な品質管理を行ったうえで順次生産・出荷を再開するとともに、安定供給体制構築を見据えたグループ全体での生産体制最適化に向けた取り組みを進めております。

当第2四半期連結累計期間の日医工グループにおける業績は、岐阜工場品の売上への寄与（約176億円）があったものの、薬価改定による薬価引き下げや、製造委託先（小林化工株式会社）での生産・出荷停止に起因するエルメッド製品の売上減少に加え、富山第一工場では順次出荷を再開しているものの想定よりも出荷再開に時間を要していることなどから、売上収益は656億14百万円（前年同期比68億99百万円減）、セグメント損失は81億37百万円（前年同期比105億86百万円減）と大幅な減収減益となりました。

②Sagent グループ

Sagent グループにおいては、コスト競争力・安定供給能力の強化を目指し、Sagent・ローリー工場、Omega・モントリオール工場、SterRx における内製化・自社製造能力の拡充に向けた体制強化を進めております。また、バイオシミラー、オーファンドラッグの米国市場への早期上市、Sagent 開発品の日本・東南アジア市場への導出に向けた取り組みを進めております。

当第2四半期連結累計期間のSagent グループにおける業績は、新型コロナウイルス関連製品が引き続き好調であったことやカナダ市場での売上増加、経費節減による販管費の減少などにより、前年同期よりも改善し、売上収益は203億16百万円（前年同期比30億11百万円増）、セグメント損失は6億52百万円（前年同期比4億35百万円の損失減）となりました。

B. グループ全体の業績

(単位:百万円)	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	増減
売上収益	89,631	85,931	▲3,699
コア営業利益	1,360	▲8,790	▲10,151
営業利益	523	▲14,026	▲14,550
税引前四半期利益	369	▲13,626	▲13,995
親会社の所有者に帰属する四半期利益	146	▲14,593	▲14,739
希薄化後1株当たり四半期利益	2.28	▲224.30	▲226.58

(注) 当社グループでは、経常的な収益性を示す指標として「コア営業利益」を採用しております。「コア営業利益」は営業利益から非経常的な要因による損益を除いて算出しております。

売上収益は、Sagent グループは増収も日医工グループの減収があり、前年同期比36億99百万円の減収となりました。

コア営業利益は、日医工グループの減益があり前年同期比101億51百万円の大幅な減益となりました。

営業利益は、日医工グループにおいて、富山第一工場製造品について、当社グループで保有する同種同効成分製剤へ統合を図ることが可能なもの、一定の時間をかけて改善措置を図ることができるもの、製造再開に想定以上の時間を要することが見込まれるものに区分した上で検討を行った結果、今後廃棄となる可能性が高いと見込まれる原材料、仕掛品等について評価損の計上(約48億円)を行ったことなどから、前年同期比145億50百万円の大幅な減益となりました。

税引前四半期利益は前年同期比139億95百万円の減益、親会社の所有者に帰属する四半期利益は前年同期比147億39百万円の減益となりました。

(新型コロナウイルス感染症の影響について)

新型コロナウイルス感染症に関して、当社グループでは在宅勤務、時差出勤、各部署の執務場所分散等の実施、加えて、富山本社、富山第一工場、岐阜工場において職域接種を実施する等、引き続き感染拡大防止に努めております。

業績への影響に関しては、患者様の受診抑制、手術延期、営業活動制限による売上への影響や、米国において調達先からの一部製品についての資材供給が滞るなどの影響がありましたが、新型コロナウイルス関連製品の売上が伸長するなどのプラス面もあり、これまでのところ大きな影響は出ておりません。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び資本の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べ15億7百万円増加し、3,650億80百万円となりました。これは主に以下の要因によるものであります。

	増減額 (百万円)	主な要因
現金及び現金同等物	△4,177	富山第一工場生産再開を見据えた原材料調達など
売上債権及びその他の債権	△2,267	2021年4月の薬価改定及び富山第一工場製造品の出荷遅延による売上減少など
棚卸資産	+4,952	富山第一工場生産再開を見据えた原材料調達及び仕掛品確保など
有形固定資産	△2,612	減価償却費の計上及び設備投資など
無形資産	+6,619	製造販売権の取得、バイオシミラー及びジェネリック医薬品の開発投資など

当第2四半期連結会計期間末の負債につきましては、前連結会計年度末に比べ116億5百万円増加し、2,627億42百万円となりました。これは主に以下の要因によるものであります。

	増減額 (百万円)	主な要因
仕入債務及びその他の債務	△9,233	富山第一工場生産調整に伴う発注減など
借入金	+14,679	運転資金の調達など
その他の金融負債	+5,190	リース負債の増加など

当第2四半期連結会計期間末の資本につきましては、前連結会計年度末に比べ100億97百万円減少し、1,023億37百万円となりました。これは主に以下の要因によるものであります。

	増減額 (百万円)	主な要因
資本金	+2,615	第三者割当方式による新株式発行
資本剰余金	+2,615	第三者割当方式による新株式発行
利益剰余金	△15,737	四半期損失の計上など

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ41億77百万円減少し、249億65百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況の詳細は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、当第2四半期連結累計期間において198億59百万円の支出超過となりました。これは主に以下の要因によるものであります。

内容	金額 (百万円)
税引前四半期損失の計上	△13,626
減価償却費及び償却費の計上	6,171
棚卸資産の増加	△4,508
売上債権及びその他の債権の減少	2,425
仕入債務及びその他の債務の減少	△8,796

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、当第2四半期連結累計期間において76億80百万円の支出超過となりました。これは主に以下の要因によるものであります。

内容	金額 (百万円)
有形固定資産の取得による支出	△2,090
無形資産の取得による支出	△7,937
持分法で会計処理されている投資の売却による収入	2,500

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、当第2四半期連結累計期間において235億17百万円の収入超過となりました。これは主に以下の要因によるものであります。

内容	金額 (百万円)
借入金の純増	14,562
新株式の発行による収入	5,207
セール・アンド・リースバックによる収入	5,641

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間の業績、今後の業績見込を踏まえ、2021年8月10日に公表いたしました2022年3月期通期連結業績予想を、2021年11月11日に下記のとおり修正し公表しております。

詳細につきましては、2021年11月11日に公表いたしました「棚卸資産評価損の計上及び業績予想の修正並びに配当予想の修正（無配）に関するお知らせ」をご覧ください。

	売上収益 (百万円)	コア営業利益 (百万円)	営業利益 (百万円)	親会社の所有者に 帰属する当期利益 (百万円)	基本的1株当たり 当期利益 (円)
前回発表予想 (A)	195,000	700	500	200	3.12
今回修正予想 (B)	185,000	△11,900	△17,100	△18,600	△275.39
増減額 (B-A)	△10,000	△12,600	△17,600	△18,800	
増減率 (%)	△5.1	—	—	—	
(参考) 前期通期実績 (2021年3月期)	188,218	977	107	△4,179	△65.28

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	29,142	24,965
売上債権及びその他の債権	42,882	40,615
棚卸資産	96,110	101,062
未収法人所得税	55	-
その他の金融資産	3,715	3,716
その他の流動資産	3,195	3,405
小計	175,102	173,765
売却目的で保有する資産	-	824
流動資産合計	175,102	174,589
非流動資産		
有形固定資産	68,943	66,331
のれん	45,661	46,065
無形資産	56,957	63,577
持分法で会計処理されている投資	2,202	81
その他の金融資産	11,635	11,853
繰延税金資産	12	14
その他の非流動資産	3,058	2,566
非流動資産合計	188,469	190,490
資産合計	363,572	365,080

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債及び資本		
負債		
流動負債		
仕入債務及びその他の債務	65,359	56,125
借入金	63,113	71,481
その他の金融負債	1,615	2,034
未払法人所得税	937	2,014
返金負債	2,712	2,105
契約負債	127	117
その他の流動負債	9,707	9,810
流動負債合計	143,574	143,691
非流動負債		
借入金	86,021	92,332
その他の金融負債	4,182	8,954
退職給付に係る負債	960	961
引当金	83	83
返金負債	98	75
契約負債	631	582
繰延税金負債	14,711	14,972
その他の非流動負債	874	1,089
非流動負債合計	107,562	119,050
負債合計	251,136	262,742
資本		
資本金	23,360	25,975
資本剰余金	21,896	24,511
その他の資本性金融商品	9,918	9,918
自己株式	△2,267	△2,124
利益剰余金	50,822	35,084
その他の資本の構成要素	7,437	8,136
親会社の所有者に帰属する持分合計	111,167	101,502
非支配持分	1,268	835
資本合計	112,435	102,337
負債及び資本合計	363,572	365,080

(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書
(要約四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上収益	89,631	85,931
売上原価	73,950	85,079
売上総利益	15,680	851
販売費及び一般管理費	13,074	13,483
研究開発費	1,879	1,819
その他の営業収益	142	751
その他の営業費用	346	327
営業利益 (△は損失)	523	△14,026
金融収益	90	628
金融費用	445	427
持分法による投資損益	200	199
税引前四半期利益 (△は損失)	369	△13,626
法人所得税費用	254	1,134
四半期利益 (△は損失)	114	△14,760
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	146	△14,593
非支配持分	△31	△167
四半期利益 (△は損失)	114	△14,760
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益 (△は損失) (円)	2.28	△224.30
希薄化後1株当たり四半期利益 (△は損失) (円)	2.28	△224.30

(要約四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期利益 (△は損失)	114	△14,760
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	355	97
持分法適用会社におけるその他の包括利益に対する持分	△0	-
純損益に振り替えられることのない項目合計	354	97
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	△1,520	656
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	△1,520	656
その他の包括利益 (税引後)	△1,166	753
四半期包括利益	△1,051	△14,006
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	△982	△13,848
非支配持分	△68	△158
四半期包括利益	△1,051	△14,006

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分					その他の資本の構成要素	
	資本金	資本剰余金	その他の資本 性金融商品	自己株式	利益剰余金	在外営業活 動体の換算 差額	その他の包 括利益を通 じて公正価 値で測定す る金融資産
2020年4月1日時点の残高	23,360	21,896	9,918	△2,562	57,365	4,339	1,235
四半期利益(△は損失)					146		
その他の包括利益						△1,483	354
四半期包括利益合計	-	-	-	-	146	△1,483	354
その他の資本性金融商品の所有者に 対する分配					△220		
自己株式の取得				△0			
自己株式の処分		△24		127			
新株予約権の失効					29		
配当(注)					△959		
利益剰余金から資本剰余金への振替		24			△24		
所有者との取引額合計	-	-	-	127	△1,174	-	-
2020年9月30日時点の残高	23,360	21,896	9,918	△2,435	56,337	2,856	1,589

	親会社の所有者に帰属する持分				非支配持分	合計
	その他の資本の構成要素		合計			
	その他	合計				
2020年4月1日時点の残高	274	5,848	115,826	1,343	117,170	
四半期利益(△は損失)		-	146	△31	114	
その他の包括利益		△1,128	△1,128	△37	△1,166	
四半期包括利益合計	-	△1,128	△982	△68	△1,051	
その他の資本性金融商品の所有者に 対する分配		-	△220		△220	
自己株式の取得		-	△0		△0	
自己株式の処分		-	103		103	
新株予約権の失効	△29	△29	-		-	
配当(注)		-	△959		△959	
利益剰余金から資本剰余金への振替		-	-		-	
所有者との取引額合計	△29	△29	△1,076	-	△1,076	
2020年9月30日時点の残高	245	4,690	113,767	1,274	115,042	

(注) 配当の金額には従業員持株会専用信託への配当金額を含めておりません。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分					その他の資本の構成要素	
	資本金	資本剰余金	その他の資本 性金融商品	自己株式	利益剰余金	在外営業活 動体の換算 差額	その他の包 括利益を通 じて公正価 値で測定す る金融資産
2021年4月1日時点の残高	23,360	21,896	9,918	△2,267	50,822	6,526	669
四半期利益(△は損失)					△14,593		
その他の包括利益						648	97
四半期包括利益合計	-	-	-	-	△14,593	648	97
新株の発行	2,615	2,615					
新株の発行に係る直接発行費用		△23					
その他の資本性金融商品の所有者に 対する分配					△220		
自己株式の取得				△0			
自己株式の処分		△58		133			
自己株式処分差損の振替		58			△58		
新株予約権の行使		△3		8			
新株予約権の失効					39		
配当(注)					△641		
非支配持分との資本取引及びその他 利益剰余金から資本剰余金への振替		△236			△263		
その他の資本の構成要素からの振替		263			△263		
所有者との取引額合計	2,615	2,615	-	142	△1,143	-	△1
2021年9月30日時点の残高	25,975	24,511	9,918	△2,124	35,084	7,174	765

	親会社の所有者に帰属する持分				合計
	その他の資本の構成要素		合計	非支配持分	
	その他	合計			
2021年4月1日時点の残高	240	7,437	111,167	1,268	112,435
四半期利益(△は損失)	-	-	△14,593	△167	△14,760
その他の包括利益		745	745	8	753
四半期包括利益合計	-	745	△13,848	△158	△14,006
新株の発行		-	5,231		5,231
新株の発行に係る直接発行費用		-	△23		△23
その他の資本性金融商品の所有者に 対する分配		-	△220		△220
自己株式の取得		-	△0		△0
自己株式の処分		-	74		74
自己株式処分差損の振替		-	-		-
新株予約権の行使	△5	△5	0		0
新株予約権の失効	△39	△39	-		-
配当(注)		-	△641		△641
非支配持分との資本取引及びその他 利益剰余金から資本剰余金への振替		-	△236	△274	△510
その他の資本の構成要素からの振替		△1	-		-
所有者との取引額合計	△44	△46	4,183	△274	3,909
2021年9月30日時点の残高	195	8,136	101,502	835	102,337

(注) 配当の金額には従業員持株会専用信託への配当金額を含めておりません。

(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益 (△は損失)	369	△13,626
減価償却費及び償却費	6,312	6,171
減損損失 (又は戻入れ)	—	212
受取利息及び受取配当金	△90	△144
支払利息	279	301
持分法による投資損益 (△は益)	△200	△199
関連会社株式売却損益 (△は益)	—	△363
売上債権及びその他の債権の増減額 (△は増加)	10,390	2,425
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△7,357	△4,508
仕入債務及びその他の債務の増減額 (△は減少)	△4,995	△8,796
返金負債の増減額 (△は減少)	△823	△639
預り金の増減額 (△は減少)	△866	△1,060
その他	△1,895	607
小計	1,123	△19,619
配当金の受取額	60	76
利息の受取額	4	1
利息の支払額	△275	△331
法人所得税の支払額	△154	△140
法人所得税の還付額	360	154
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,119	△19,859
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,536	△2,090
無形資産の取得による支出	△5,463	△7,937
子会社の取得による支出	—	△108
持分法で会計処理されている投資の売却による収入	—	2,500
その他	54	△43
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,945	△7,680
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	7,037	5,669
長期借入による収入	—	14,170
長期借入金の返済による支出	△4,685	△5,276
セール・アンド・リースバックによる収入	—	5,641
リース負債の返済による支出	△990	△1,106
株式の発行による収入	—	5,207
配当金の支払額	△959	△641
その他の資本性金融商品の所有者に対する分配額	△220	△220
その他	103	74
財務活動によるキャッシュ・フロー	283	23,517
現金及び現金同等物に係る換算差額	△57	△154
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△7,599	△4,177
現金及び現金同等物の期首残高	42,944	29,142
現金及び現金同等物の四半期末残高	35,344	24,965

(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

(1) 報告セグメント

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものがあります。

当社は医薬品事業を構成する「日医工グループ」「Sagent グループ」の2つの報告セグメントにしております。「Sagent グループ」は、Sagent Pharmaceuticals, Inc. 及びその連結子会社で構成されています。「日医工グループ」は、「Sagent グループ」を除いた会社にて構成されています。

報告セグメントの売上収益及びセグメント利益は以下のとおりであります。

前第2四半期連結累計期間（自 2020年4月1日 至 2020年9月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	連結
	日医工グループ	Sagentグループ	合計		
売上収益					
外部収益	72,513	17,304	89,818	—	89,818
セグメント間収益	—	—	—	—	—
合計	72,513	17,304	89,818	—	89,818
セグメント利益（△は損失） （コア営業利益）（注）	2,449	△1,088	1,360	—	1,360

(注) コア営業利益は、営業利益から非経常的な要因による損益を除いており、売上収益からも非経常的な要因は除外しております。

当第2四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	連結
	日医工グループ	Sagentグループ	合計		
売上収益					
外部収益	65,614	20,316	85,930	—	85,930
セグメント間収益	—	18	18	△18	—
合計	65,614	20,334	85,948	△18	85,930
セグメント利益（△は損失） （コア営業利益）（注）	△8,137	△652	△8,790	—	△8,790

(注) コア営業利益は、営業利益から非経常的な要因による損益を除いており、売上収益からも非経常的な要因は除外しております。

報告セグメントの合計額と要約四半期連結財務諸表計上額の差異の調整は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上収益計	89,818	85,930
自主回収引当(△は戻入)	187	△1
要約四半期連結財務諸表上の売上収益	89,631	85,931

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
セグメント利益(△は損失)	1,360	△8,790
統合関連費用	90	24
自主回収費用	746	161
在庫評価減(注)	—	4,837
減損損失	—	212
営業利益(△は損失)	523	△14,026
金融収益	90	628
金融費用	445	427
持分法による投資損益	200	199
税引前四半期利益(△は損失)	369	△13,626

(注) 富山第一工場において今後廃棄となる可能性が高いと見込まれる原材料・仕掛品等についての評価損を計上しております。

(2) 製品及びサービスに関する情報

製品及びサービスごとの売上収益は以下のとおりであります。

前第2四半期連結累計期間（自 2020年4月1日 至 2020年9月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント		
	日医工 グループ	Sagent グループ	合計
商品及び製品の販売			
循環器官用薬	14,753	—	14,753
血液及び体液用薬	13,220	—	13,220
抗生物質	3,941	4,604	8,545
救急救命用薬	—	7,790	7,790
消化器官用薬	7,691	—	7,691
神経系用薬	8,878	—	8,878
化学療法剤	1,157	4,259	5,416
外皮用薬	3,515	—	3,515
その他	19,354	650	20,004
合計	72,513	17,304	89,818

(注)コア営業利益と同様に、売上収益からも非経常的な要因は除外しております。

当第2四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント		
	日医工 グループ	Sagent グループ	合計
商品及び製品の販売			
循環器官用薬	10,154	—	10,154
血液及び体液用薬	9,807	—	9,807
抗生物質	4,202	5,544	9,746
救急救命用薬	—	9,658	9,658
消化器官用薬	7,026	—	7,026
神経系用薬	7,353	—	7,353
化学療法剤	1,194	4,343	5,538
外皮用薬	5,185	—	5,185
その他	20,689	770	21,459
合計	65,614	20,316	85,930

(注)コア営業利益と同様に、売上収益からも非経常的な要因は除外しております。

前第2四半期連結累計期間（自 2020年4月1日 至 2020年9月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント		
	日医工グループ	Sagentグループ	合計
商品及び製品の販売	72,454	17,304	89,759
製品の販売等に関するライセンス契約	58	—	58
合計	72,513	17,304	89,818

(注)コア営業利益と同様に、売上収益からも非経常的な要因は除外しております。

当第2四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント		
	日医工グループ	Sagentグループ	合計
商品及び製品の販売	65,554	20,316	85,870
製品の販売等に関するライセンス契約	59	—	59
合計	65,614	20,316	85,930

(注)コア営業利益と同様に、売上収益からも非経常的な要因は除外しております。

(3) 地域別に関する情報

売上収益の地域別内訳は以下のとおりであります。

前第2四半期連結累計期間（自 2020年4月1日 至 2020年9月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント		
	日医工 グループ	Sagent グループ	合計
日本	72,428	—	72,428
米国	—	15,015	15,015
その他	85	2,289	2,374
合計	72,513	17,304	89,818

(注) 1. 売上収益は、販売仕向先の所在地によっています。

2. コア営業利益と同様に、売上収益からも非経常的な要因は除外しております。

当第2四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント		
	日医工 グループ	Sagent グループ	合計
日本	65,453	—	65,453
米国	—	17,189	17,189
その他	160	3,126	3,287
合計	65,614	20,316	85,930

(注) 1. 売上収益は、販売仕向先の所在地によっています。

2. コア営業利益と同様に、売上収益からも非経常的な要因は除外しております。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループでは今年4月以降、FMEA等の独自の厳しい品質チェック等を行いながら、順次、生産・出荷を再開しておりますが、いまだ全品目の出荷再開には至っておりません。加えて、薬価改定による薬価引き下げ、製造委託先での生産・出荷停止に起因するエルメッド製品の売上減少、更には富山第一工場製造品について、当社グループで保有する同種同効成分製剤へ統合を図ることができるもの、一定の時間をかけて改善措置を図ることができるもの、製造再開に想定以上の時間を要することが見込まれるものに区分した上で検討を行った結果、今後廃棄となる可能性が高いと見込まれる原材料、仕掛品等について評価損の計上（約48億円）を行ったこと等から、当第2四半期連結累計期間において140億26百万円の営業損失及び145億93百万円の親会社の所有者に帰属する四半期損失を計上し、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせようような事象等が存在する状況となっております。

しかしながら当社グループにおいては、今後、富山第一工場製造品の生産・出荷を順次再開させていくとともに、引き続きグループ全体での生産体制の最適化に向けた取り組みも推し進め収益力改善に取り組んでいること、加えて全社レベルでの経費削減や物流コストの抑制、在庫・仕入管理の徹底により、キャッシュ・フローの改善に向けた施策を講じております。これらの施策に加えて、金融機関からの融資についても必要運転資金を賄える融資枠を確保していることもあり、当面の資金状況に重要な懸念はなく、継続企業の前提に重要な不確実性は認められないと判断しております。